

「冬のオフピーク通勤」の結果について

1 オフピーク通勤の概要

〈実施概要〉

- ・ 時差勤務の試行期間中に、鉄道の混雑緩和を目的としたオフピーク通勤を実施した。
- ・ ピーク時間帯前後の混雑状況について、情報発信を行う等により、混雑率の低い、遅い時間帯の取得割合向上を図った。
- ・ 市内の経済団体等の協力をいただきながら、市内企業や従業員等に働きかけを行った。

〈実施期間〉 平成31年1月21日(月)～2月1日(金) (「時差 Biz」期間にあわせて実施)

2 参加状況 (市職員)

対象者数 8,039人 参加者数 1,699人
延べ人数 5,484人 ⇒ 1日あたり平均参加人数 約548人(夏は約934人)

〈時差勤務パターンを選択割合〉(定時:8:30～17:15)

■ 早い時間帯

①7時30分～16時15分	32.0%
②8時00分～16時45分	30.3%
計	62.3%

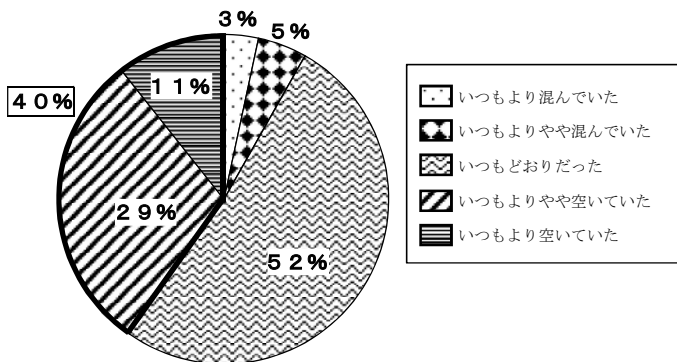
■ 遅い時間帯

③9時00分～17時45分	17.7%
④9時30分～18時15分	14.4%
⑤10時00分～18時45分	5.6%
計	37.7%

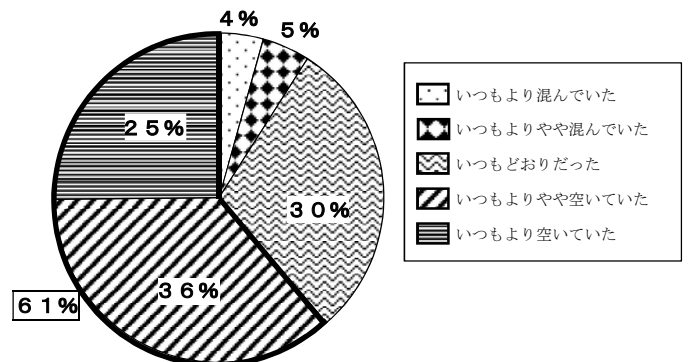
3 アンケート結果

(1) 市職員 (回答件数 3,539件)

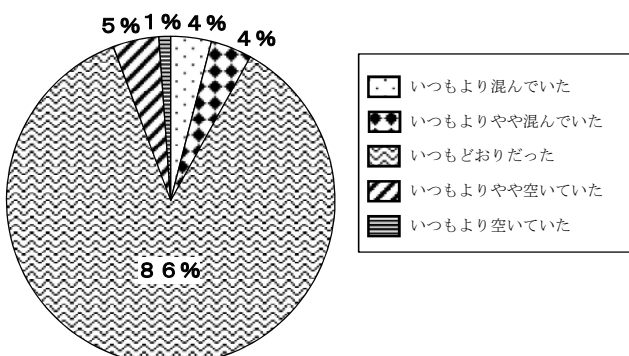
■ 勤務パターン①②を実施したときの電車内の混雑状況について



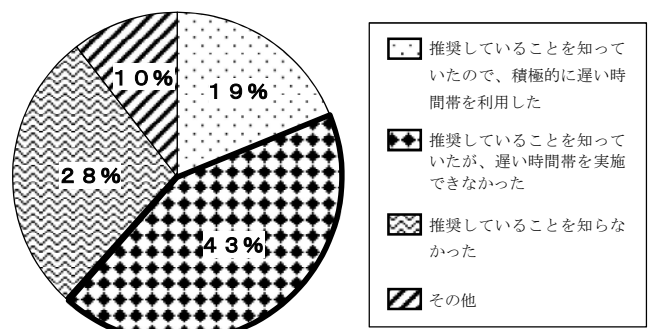
■ 勤務パターン③④⑤を実施したときの電車内の混雑状況について



■ 通常勤務したときの電車内の混雑状況について

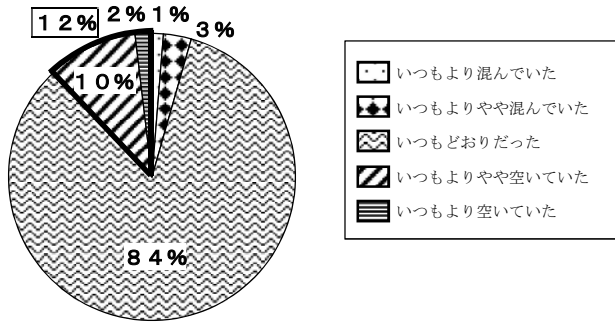


■ 遅い時間帯の利用を推奨したことについて



(2) 民間企業等従業員（回答件数 290 件）

■ 普段利用している電車内の混雑状況について（会社の最寄り駅にピーク時間帯（7:30～8:30）に到着している従業員）



【その他意見・要望】

- ・「オフピーク通勤に関する更なる期待」
- ・「輸送力増強や安全対策等ハード面に関する要望」
- ・その他
「周知方法の工夫」、「取組によるメリットの提供」、「近隣自治体との連携」、「オフピーク通勤に関する環境整備」等

4 取組効果

(1) 参加状況からみえる効果（市職員）

- ・遅い時間帯の通勤を推奨したことにより、昨年夏と比べ、時差勤務パターン③～⑤の取得率が約 2.5 ポイント増加した。(35.2%→37.7%)
- ・南武線最混雑区間利用者のうち、ピークをずらした人数（実質的なオフピーク人数）は、1日あたり平均約 81 人（＝約 115 人×約 70.3%）※1
⇒計算上の効果 混雑率約 0.4 ポイント低減※2（188.6%→188.2%）※3

※1 時差勤務パターンに関係なく、平均参加人数に、普段からピーク時間帯より早く出勤している職員割合 29.7% を引いて算出したものを実質的なオフピーク人数として仮定
※2 夏の取組では計算上、混雑率約 1.2 ポイント低減
※3 国土交通省 混雑率調査結果【H29】 南武線（武蔵中原駅→武蔵小杉駅）
6:29～7:29:153% 7:30～8:30:189% 8:31～9:31:124%

(2) アンケート結果からみえる効果

- ・市職員においては、早い時間帯の通勤で約 4 割、遅い時間帯の通勤で約 6 割が一定程度空いていることを実感している。
- ・民間企業等従業員においては、ピーク時間帯で 1 割程度が一定程度空いている事を実感している。

5 取組の考察

- ・民間企業等に働き掛けを行ってきたことで、16 団体※に参加登録いただき、290 件のアンケートの回答を得られるなど、徐々に機運が高まってきているが、引き続き広く参加を働きかけていく必要がある。※ 夏の時点では参加登録 8 団体
- ・オフピーク通勤の取組を通じて、本市アンケートでは、昨年夏と比べ、ピーク時間帯より早く出勤している割合が増加※し、一定の定着化につながってきていると考えられるが、継続的に状況を確認していく必要がある。※ 21.6%→29.7%【+8.1 ポイント】
- ・遅い時間帯の取得割合に関して、一定程度の向上が図られたが、アンケートでは「推奨していることを知っていたが、遅い時間帯を実施できなかった」が約 4 割に上り、自由意見でも「子供と過ごす時間が短くなる」「食事の支度に影響が出る」「帰宅時に混んでいる」等の意見も寄せられたことから、各々のワークライフに応じたオフピーク通勤を働きかけることが重要である。

6 今後の方向性

- ・オフピーク通勤については、一定の定着化が図られてきており、今後も本市の働き方・仕事の進め方改革と連携し、市職員の継続的な取組により更なる定着化を図る。
- ・首都圏の広域的な効果拡大に向けて、東京都が進める「時差 Biz」と連携するとともに、市内の企業・団体に広く参加を働きかけ、オフピーク通勤の一層の機運向上を図る。

川崎市まちづくり局交通政策室【オフピーク通勤の取組全般】

担当 久木田 電話 044-200-2760

川崎市総務企画局人事部労務課【時差勤務の運用について】

担当 峰岸 電話 044-200-2145